京都大学新聞

学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
（761）2054 直通
（751）2111（内線2571）
振替・京都3909
（1部30円　1年間1,000円）

コンパの御相談承ります
割烹 きよす
懐石料理・寿司・テンプラ
スキヤキ・ナベ料理一切
寺町通今出川上ル
TEL
（231）5121
（231）5122
（231）1750
（231）8776

矢田教育差別事件―「橋のない川」上映阻止

差別・弾圧裁判に糾弾の嵐

6・18

二百名、奈良地裁を包囲

「橋のない川公判」新たな局面へ

六月十八日、午後二時から、奈良地裁において、差別映画「橋のない川」上映阻止闘争差別弾圧裁判糾弾闘争が、法廷内外を貫いて闘い抜かれた。

これまでの公判においては、検察側が「暴力事件」をでっちあげるために六人の「証人」調べを行ない、それぞれまちまちの「証言」ばかりで、デッチあげが暴露された。そして、今回の第十二回公判からは、弁護側から積極的に部落解放運動―糾弾闘争の正当性を立証していく新段階にはいっていった。

この日は、木下弁護人から一時間半にわたり弁護側立証段階における〝冒頭陳述〟と、崎浜青年から自分が決起して来た理由について〝意見陳述〟が三十分間行なわれた。

冒頭陳述では、まず最初に第一に、映画上映阻止という正当な目的をもったデモに対する機動隊の出動は部落解放運動の正しい発展を阻害するものである。解放運動―差別糾弾闘争の正当性について立証していく。第二に、検察側は部落問題を意識的に切りすてて「橋のない川第二部」上映の持つ意味を隠ぺいしょうとしているが、同対審答申にあるように、憲法と人権の守り手としての司法も同じく部落解放の一翼を担い、その視点を根底におかなければならない。第三に、起訴事実と被告人の行動が全くくい違うものばかりでなく「上映阻止」は絶対に正当なものである事を立証していきたい。―という事が前おきされ、江戸時代幕藩体制以来の部落差別の発生から、水平社宣言を引用しつつの水平社結成前後の闘い、高松結婚差別裁判の闘い、戦後の部落解放全国委から部落解放同盟への運動の経過と理論的前進について部落差別の歴史を追いつつ述べられた。また、中村君結婚差別事件・狭山差別裁判の具体例をひきつつ差別の現実について説明され、三つの命題によって差別の本質が訴えられた。更に、〝糾弾〟の部落解放運動にとっての重要性について、弓場美恵さんの自殺、徳島不当弾圧裁判における「糾弾権」を認める判決の例を引きつつ展開された。そして「橋のない川」の差別性と、日共・「見る会」による上映強行の隠された意図について、69年の矢田教育差別事件を引きあいに出しつつ述べられた。更に仮処分申請を認めた司法権力の差別性・警察権力の全く不当な弾圧経過について報告された。

続いて、崎浜氏から沖縄人としての決起について冒頭陳述が次のように行なわれた。

―本来ならウチナーグチでしゃべりたいが、わかりにくいと思うのでヤマトークチでしゃべる。この映画が部落差別をあおりたて、部落に対する予断・偏見・憎悪を拡大助長する事に対して、そうした解放同盟の訴えを心からうけとめ、沖縄への差別が未だ残っているのは未だ部落差別、在日中朝人民への差別が残っているからだと思い決起した。また、一九二六年、広津和郎の『さまよえる琉球人』という出版物が、同情融和のなかで沖縄に対する差別意識・悲惨な歴史をますます広げるものであったのに対し、同年結成された沖青同が抗議したところ、広津和郎は「とり返しのつかないことをした」として自己批判にその本を絶版した事実を明らかにする―更に、薩摩以来の沖縄属領化、三度にわたる琉球処分、その過程での皇民化・忠君愛国政策（方言撲滅運動と、それを背景にした日帝のアジア侵略へのバク進）沖縄戦での友軍=日本軍による沖縄人虐殺、戦後米軍による土地強奪と、日本の米国への売り渡しという沖縄の差別と迫害の歴史が述べられた。そして―72年沖縄返還は、数度の米兵による沖縄人虐殺の事実の示すように一層の差別抑圧の強化とアジア侵略への第一歩に他ならない。こうして、沖縄の悲惨の原因は侵略のために沖縄を〝琉球処分〟という形で利用して来た日本政府にあり、それを支えたのが沖縄に対する差別である。今回、自分がやったのでないのにやったとされている理由に「暴力常習者」「すぐカッとなる」「沖縄から監督者なしで来ている」という事が言われているが、これこそこの事件の隠された本質であり、自分に対する予断と偏見によるデッチあげである。こうした暴挙に対し満身の怒りをこめて糾弾し、差別を温存、助長する支配者に真向から対決し人間の復権をかけて闘う。われわれの怒りと固い連帯をたち切ることはできない。連帯をたち切る者には真向からたち向っていく―と鋭く訴えられた。

この公判に先立って、午後一時過ぎより、奈良県連の部落大衆を中心に約二百名が結集、公判闘争の巨大な盛り上りを見せていた。特に、県連青年部の高校生は、各高校部落研を軸に高校生の大量結集をかちとり、大阪府連からも、浪速支部、平野支部などの代表が荊冠旗を持って結集した。

集会では、「橋のない川」第二部糾弾公判闘争委員会事務局から、この日の第十二回公判からは部落解放運動―糾弾闘争の正当性を明らかにしていく公判闘争になることが述べられた。五月上旬に結成をかちとった〝狭山差別裁判糾弾、「橋のない川」糾弾、部落完全解放奈良県青年労働者共闘〟からの決意表明に続いて、社会主義青年同盟奈良地本からは、東京高裁―奈良地裁を貫く糾弾闘争の展開が訴えられた。

そして、圧倒的な拍手の中で崎浜君が発言にたち、「この裁判がデッチ上げであることは明らかであり、それを通じて解放運動を弾圧しようとしている。これに手を貸しているのが日共である。部落解放運動と沖縄解放運動を結びつけ、糾弾権の抹殺を絶対に許さず闘い抜いていく」と決意の表明が行われた。

そして、崎浜君・弁護士・傍聴団を送り出し、残った全員は、地裁構内をデモとシュプレヒコールで席巻、さらにその後、集会が続行された。

その集会では、まず県連各支部青年部からの発言が行われ、御所支部協の発言に続いて、大阪府連の中田執行委員から、この奈良の公判闘争を、大阪の矢田教育差別裁判とも、糾弾権の抹殺を許さない闘いとして闘っていくことが訴えられた。そして、上但馬支部青年部からは、現在高松高裁で闘われている差別裁判の公判闘争についての提起と、部落産業の崩壊という攻撃の中での支部の取組みが報告され、下之庄支部青年部からは、「教育への介入」ということをもって中学生の補充学級の生徒と青年部との分断をはかる教師たちの策動を怒りをもって糾弾することが訴えられた。

西穴闇支部青年部、天理支部協、桜井支部協の発言に続き、結集した大学、高校部落研などからの発言が続いた。発言は、公判闘争に四十名の結集をかちとった田原本農高部落研、十数名の結集をかちとった御所高部落研をはじめ、生駒高、桜井高、北和高、田川高、奈良工高、奈良高、天理高、大手前高（定時制）の各高校部落研、さらに、全逓生駒分会のN君を守る会の労働者、また狭山公判闘争京大実行委、奈良学大実行委、大阪医大部落研、天理大部落研、の学生などから闘争報告と決意表明が行なわれた。

その間、集会を中断して二度にわたって地裁構内のデモンストレーションを行ない、シュプレヒコールを公判廷内にも轟かせて、廷内の闘争と一体となって、法廷外での糾弾闘争を貫徹した。

そして、公判終了後、四時半より、崎浜君、傍聴団を含めて報告集会が行なわれた。

集会では、まず解放同盟奈良県連の米田委員長より、木下弁護人の冒頭陳述と崎浜君の意見陳述の内容の概略が述べられた後、「今日の公判に若い諸君が非常に多数結集してくれて、私もうれしい。この若い力で、現在の帝国主義的な政府を打ち倒し、部落の完全解放をかちとるべく頑張ってほしい」と訴えられた。

木下弁護人からは、法廷外のデモやシュプレヒコールが聞えてきて、非常に励ましになったことが感想として述べられ、崎浜君、山下執行委員、藤本青年部長の発言の後、解放歌の合唱をもってこの日の公判闘争を終えた。

なお、次回公判は七月二十三日（午後二時）、次々回は八月二十日に行なわれる予定である。

6・8

弁護側立証に入る

矢田教育差別弾圧裁判

糾弾闘争の正当性を展開

六月八日午前十時半より、矢田教育差別糾弾闘争に対する差別弾圧裁判の公判闘争が、大阪地裁において行なわれた。

「矢田教育差別事件」とは、六九年三月、大阪市教組の役員選挙に阪南中学校分会の木下浄が配った立候補あいさつ状が、劣悪な社会環境におかれている部落の子供たちの切実な要求と教員の日常要求とを故意に対立させ、「同和教育」があたかも教育労働者の労働強化の元凶であるかのように訴えることによって部落差別を温存助長する差別文書であったため、部落解放同盟大阪府連が、矢田支部を中心に糾弾闘争を取り組んだことに始まっている。木下や、この差別文書の推せん者となっていた数人は、同盟の糾弾に対して、最初は、差別文書であること、糾弾の正しいことを認めたのであるが、木下らが日本共産党員であったことから、日共は糾弾闘争に真向から敵対して不当な介入を行ない、木下らも完全に居直って一片の誠意も示さず糾弾に敵対するようになった。そして、木下らは同盟の西岡智、上田卓三、泉海節一、戸田政義の四氏を不当にも「逮捕監禁罪・強要未遂罪」で告訴するにいたり、後に、泉海、戸田の両氏が不当に起訴されて裁判が行なわれているのである。

この日、午前十時半から始まった公判には、矢田支部を中心に解放同盟の部落大衆約百名が結集して、傍聴制限を一切行わせることなく全員が傍聴を行ない、また、狭山公判闘争京大実行委や同志社大の学生約三十名も公判闘争に結集した。なおこの日、戸田氏は公判廷に出たが、泉海氏は病気のため欠席した。

公判では、まず「矢田教育差別事件」の起った当時の大阪府連委員長で、現在は日共の分裂組織「正常化連」の下で部落解放同盟への敵対を強めている岸上繁雄氏の検察側調書が裁判長によって読み上げられた。

その中で、岸上氏は、四月九日の差別教員岡野、金井、玉石の三名に対する糾弾集会において、日共系弁護士の不誠実な対応に対して怒り、木下らを糾弾したことなどについて、「大衆に調子を合わせたもので、抽象的・一般的発言だった」などと、みずからの怒りさえもみ消し、糾弾闘争自体を冒涜するかのことを述べていることが明らかにされたのである。

次に、山上弁護人より、弁護人冒頭陳述概略が、次のような要旨で述べられた。

まず、木下文書と岡野推薦文が差別文書であり、この点にすべての問題があること。そして、岡野、木下が矢田支部との話し合いの中で一回は差別文書であると認めながら、その後日共の介入によって前言を翻すようになったが、かれらを差別教師に転落させた日共の意図は何だったのか。また、部落解放運動とは何であり、差別とは何であるのか、その闘いの形態はどのようなものであるのか。そして、解放運動の死命を制する根本問題に差別糾弾闘争があること。―以上のことを中心に冒頭陳述が構成されることが述べられ、その後、事実経過の概略が、同対審答申と差別糾弾闘争の問題にも若干触れつつ述べられた。

そして、弁護人より、十四人の証人尋問請求が行われた後、この日の公判を終えた。

次回は、七月二十三日午前十時より行われる予定である。

国会

「筑波」「防衛二法」で強行採決

無力をさらけだす野党

七月二十四日の会期切れまで、あと一ヵ月足らずとなった「延長国会」は、十四日「国鉄運賃値上げ法案」が衆議院を通過、いわゆる対決法案が次々と本会議、委員会で採決の段階に入った。

このなかで、五年越しに国会に提出され、その度に力強い反対闘争によって「廃案」に追い込んできた「出入国法案」は、今回も成立がほぼ不可能な情勢となった。会期の大幅延長によって、一時は「審議強行」かといわれた同法案であるが、他の法案の審議の遅れ、朝鮮半島の政治情勢をめぐる急速な変化、そして朝鮮総連を先頭とする反対闘争の力によって、五たび「まぼろしの法案」となった。

一方、十七日の参院補選大阪地方区の敗北で政治的危機に立った田中内閣は、都議選を前に、一転して強硬な国会運営に転じ、二十二日「筑波大学」「防衛二法」の両法案を、衆院文教、内閣委員会で相次いで強行採決した。これに対し、野党は二年ぶりの「強行採決」に抗議を表明しつつも、二十五日には、議長あっせんをあっさり受諾、両法案の二十九日までの衆院通過が確実になった。

解説

成立以来一年を迎えようとする田中帝国主義ブルジョア政府は、第一に、超高度成長路線―列島改造・国土利用の大合理化による資本主義経済の維持と発展、第二に、教育、軍事機構の大改編によるブルジョア独裁の打ち固め、を二本の柱として総選挙後の施政方針とした。

しかしながら、経済政策は最悪といわれるインフレの昂進、資本主義秩序の荒廃、農業政策の無方針そして急速に拡がった環境汚染、食品汚染による国民生活の破壊によって、当初の方針はつぎはぎだらけになっている。

この中で、「小選挙区制」策動に見られるように、田中首相はことあるごとに「議会の非能率」を主張し、官僚的軍事的統治機構と議会制ブルジョア独裁という、帝国主義再編の完成に、なみなみならぬ決意をみせている。なるほど、小選挙区制問題以降、国会における政治情勢は、部分的・一時的な野党共闘の成立など、自民党に不利の外見をとっている。しかし、時間的な遅延はともあれ、財政政策、交通政策のかなめ「国鉄」「健保」そして、軍事政策とくに沖縄派兵の仕上げともいうき「防衛二法」、教育政策の軸「筑波大学法」を成立せしめ、沖縄「返還」以降のブルジョアジーの国内戦略の基本と枠組をつくりあげんとしている。

都議選〝ふくみ〟と「非能率な議会」という田中の脅しに屈し、表むきの「野党ペース」に酔う社共は、こうした戦略的屈服、技術的勝利が、議会制ブルジョア独裁をますます強固にしてゆくことについて、全く無自覚であり、日々生活をむしばまれ、労働を収奪されていく人民の利害から、どんどん疎遠になっている。

延長国会は、参議院の「慎重審議」あるいは、多数の積み残し法案という一定の事態を前にしつつも、戦略的な重要法案については、政府・自民党が、「政治的危機―議会の非能率による解決の遅滞」を呼号することで、強行するものと予測される。」

法制審総会

保安処分を採択す

法務省へ緊急行動を

六月二十二日、法制審議会総会は、法制審刑事特別部会のまとめた「改正刑法草案」の第一編（総則）第十一章（没収）から第十七章（期間）までを賛成多数で採択した。この結果、第十六章（保安処分）も草案通りに今秋答申される「刑法改正要綱」にもりこまれることになった。

法制審総会は四月二十日の第十回総会から「草案」の各章ごとの採択にはいり、五月十一日、五月二十八日の各総会において「判決の宣告猶予」制度を削除したほか、常習累犯―不定期刑新設、共謀共同正犯の明文化などを含め若干の修正意見を多数決をもって否決し、それぞれ原案のまま採択してきた。

この日の総会においても、弁護士出身の委員より①刑務所的雰囲気のつきまとう法務省の施設では治療の妨げとなる②精神障害者は犯罪を犯しやすいという前提は、偏見であり、統計上はむしろ普通人の方が犯罪率が高い③「将来また犯罪をするかもしれない」という予想をたてる根拠があいまいである④名目は保安処分でも実際は刑罰の色彩が濃い、などの理由から保安処分の全面削除を求める修正意見が出された。

これに対し、①犯罪が予想される者を精神病院に入れるのは他の入院者に迷惑を与える②日本の精神医学は世界的水準にあり、これを信用しなければ治療も不可能になる③釈放すれば危険とわかっているのに外に出すことはできず、これは社会の要請だ―などの差別的偏見にみち、精神医療の悲惨な現状をまったく無視した反論がだされ結局修正案は反対多数でおしきられ、否決された。

この日の総会の結果、総会は多数の力をもって「草案」の総則の採択を終え、次回より各則の採択にうつり今秋をメドに法務省へ「改正刑法要綱」の答申を行なわんとしている。

一方、法制審粉砕実行委は一時より日比谷公園において集会をもち、法制審総会での「保安処分」採択を弾劾する闘いを展開し、総会をもっての「国民的合意」のとりつけを許さず刑法改正―保安処分新設粉砕へむけ、より一層の共同戦線の構築をもって闘いぬくことが確認された。

法制審総会での「保安処分」採択に対し、全日法ゼミを中心に各学園での法制審委員への弾劾行動、さらには、法務省へむけての緊急抗議行動が設定されんとしており、七月六日の次回総会を中心に、地区救援連絡センターなどの救援戦線をも含めた闘いが展開されんとしている。

差別分断教育体制の粉砕を

6・14 差別文書配布―差別指導弾劾 一周年全学集会

諸戦線から二百名が結集

六月十四日、教育学部教育研究会（P研）、教育実習生連絡会議（実連）の呼びかけによる集会実行委の主催による「6・14差別文書配布―差別指導弾劾一周年、差別・分断・抑圧の教育研究体制解体！中教審路線・筑波新大管法攻撃粉砕！全学交流決起集会」が二百名の学生・労働者を結集して開かれた。この集会は、昨年6月14日の教育実習生へのオリエンテーションのさい、教育学部当局により配布され読み上げられた差別文書「教育実習期間中の注意事項及び希望事項」に対する弾劾追及から一年をむかえた今日までの闘いの地平を総括するとともに、京大を中心に差別・分断教育体制を解体すべく闘っている諸団体との交流をかちとり、筑波大学法をはじめとする教育の帝国主義的改編―差別・分断のより一層の強化に対決してゆく戦線を構築せんとしたものであった。

十二時半より図書館前で開始された集会は、まずP研・実連の代表から、差別文書・差別指導弾劾の一年間にわたる闘いの報告と、「同和」教育、「障害児」教育の講座設置から今後の「同和」委員会追及をもって差別教育研究体制の解体へ運動をすすめてゆくことが決意表明された。

毒物タレ流しを糾弾する会、京大全学臨職闘争委の「臨職を差別し続ける研究活動そのものを問題とし、一切の弾圧、処分を許さず闘いぬく」との発言に続き、京大部落青年友の会から次のような発言がなされた。「友の会は、69年教育学園闘争の敗北の実践的突破の方向を、革命的労学共闘の推進と、入管、部落解放闘争との結合をもって、学生運動の部分性を突破してゆく事として把え切り、京大において狭山実行委とともに解放運動推進してゆく。今秋狭山再開公判には、高松、矢田、奈良などでの糾弾権をめぐる差別弾圧裁判を結びつけ、その力を一点集中し総力をあげて結集する。」

入学者選抜における「精神障害者」排除を問題にしてきた京大保安処分粉砕共闘会議、教養部での語学登録をもっての学生管理支配に対し問題提起を続けている〝感じやすい理学部有志〟、竹本処分粉砕闘争を民青系の敵対をはねのけ闘いぬいている教育学部社研、反動沢田体制のもとで闘いぬいている農学部農工連絡会議と発言が続き、文学部西洋史学科の院入試女性差別問題を二カ月にわたる三教官追及闘争をもって闘っているR子さん支援の会は「藤縄らの第三回団交からの逃亡を弾劾し研究室占拠をもって闘いぬいている。『結婚し子を生む』か能力主義をもってのはい上りを女性に強いるこの社会をも問題にして闘ってゆく」と決意表明を行なった。

釜ケ崎共闘への西成署の壊滅攻撃に抗し、釜共闘とともに闘っている底辺委員会からは「五・一釜メーデーで掲げた「差別抑圧されている釜ケ崎労働者、部落民、在日中朝人民は団結して闘おう」というスローガンのもとに大阪土木局差別発言糾弾闘争へ釜ケ崎の労働者とともに結集し闘っている。集中的弾圧粉砕へむけ、釜ケ崎無償労働隊に志願してほしい」との発言がなされ、京大狭山公判闘争実行委、京大筑波共闘に続き、「徐さん支援闘争の地平を確証するとともに、大阪市職の本工組合主義のあらわれともいえる大阪市土木局差別発言糾弾闘争を闘う中、その背後にある土木建設資本との闘いをおしすすめてゆく」との関西徐さん支援連絡会議の特別アピールをうけた。集会の最後に京大同学会からのアピールをうけ、続いて部落青年友の会の一メンバーより緊急提起として集会途中、ビラを配布していたR子さん支援の会のメンバーに対し法学部学生数名により「うるさいから静かにしろ」「おまえはオシか」などと許しがたい差別的暴言がはかれたことが報告され、集会全体の名による糾弾行動の要請がなされた。R子さん支援の会のメンバーの発言をうけ、集会総体による糾弾を確認したのち、学内デモを展開し、ひき続き場所を移し交流会をもち、同日の闘いの成果を確認していった。

6.14一周年集会（図書館前）に諸戦線から結集した学生

フランス語
初級・中級・上級
夏期集中講座
前期　6月25日―7月13日
後期　9月17日―10月5日
（月―金：毎日）
受付：6月19日（火）より
（初級A1及び上級は
6月14日（木）より）
関西日仏学館
京都市左京区吉田東一条
TEL：761―2105（代）

月刊総合誌　7月号
流動
105　港区芝愛宕町1-3　¥180
特集＝田中訪ソと日ソ問題
訪ソは田中政権の命取りになる!?　戸川猪佐武
北方領土―なぜ返還世論は盛上がらぬか　三田英彬／他
アメリカ報告⑧ウォーターゲート事件　白居直昭
〝新琉球処分〟のなかの沖縄　金城朝夫
〝政治家〟美濃部、六年目の変身　河井継史
人体実験―二十年目の〝有罪判決〟　高杉晋吾
「入試をなくそう！市民連合」　入試連合事務局
ワシントン・ポスト紙と日本の大新聞の違い　片岡正巳
核と基地にみる日本の政治犯罪　畑穣
続たましいの解体学 森恒夫―その破局への意志　別役実
常世論⑧ 続・南（上）の島　谷川健一
連載小説　岩川隆

現代の眼
7月特集号　■発売中　■200円
―特集 民衆論―豚か狼か―
超個体的民衆支配の原理……篠村耕三
知識人にとって民衆とは何か……河野信子
民衆にとって知識人とは何か……山岡明
現代管理社会の幻像と実態……河原宏
戦後過程と大衆の偶像
・美空ひばり……猪野健治
・力道山……いいだもも
・長嶋茂雄……鈴木武樹
・唐牛健太郎……大野明男
・不破哲三―日共を女性化させた虚像……俵孝太郎
・中村錦之助……菅孝行
・三波春夫……松浦総三
・高倉健……片岡啓治
・池田大作……梅原正紀
風景としての同棲時代……唐十郎
民族の真の独立とは何か…金大中・本多勝一
汎アジア幻視行百八日…竹中労・平岡正明
東京・京橋3-11　現代評論社　振替東京4419

自然　7月特大号　290円
星間分子の観測・森本雅樹
宇宙の有機化学・坂田朗・中川直哉
□ 保井コノ先生……湯浅年子
□ 宇宙における時間……早川幸男
□ 奄美大島南部の動物たち……鈴木博
□ カピッツァ物理問題集によせて　江沢洋
アユと泳ぐ・ロゲルギスト
□ スピンはめぐる……朝永振一郎
□ ことばの科学史……辻哲夫
□ 生態学の危機……伊藤嘉昭
自然言語の類型・René Thom
破局の理論とトムの方法・彌永昌吉
東京・京橋　中央公論社

―英語学習者必読の不朽の名著―
英文法研究シリーズ
斉藤秀三郎原著・松田福松訳編
《全10巻》　冠詞用法詳解／名詞用法詳解／代名詞用法詳解／形容詞用法詳解／動詞構文詳解／叙法・時制詳解／助動詞用法詳解／準動詞用法詳解／副詞・接続詞詳解／前置詞用法詳解
【定価320～690円・内容見本呈】
定評ある吾妻書房の語学書！
基礎ドイツ語講話　入門書　真鍋良一著　¥350
基礎ドイツ語講話　初級編　真鍋良一著　¥350
新ロシア語文典　イ・プーリキナ著　¥2,300
現代ロシア語読本　稲垣兼一編　¥480
生きたロシア語慣用句　河島みどり著　¥1,500
英会話テープ　二人の対話　C.ロバート吹込　¥3,450
東京都千代田区九段南4-2-12　吾妻書房　出版目録呈 営業部P係へ

銀河書店
社会現象学
■既成社会科学への疑問とその解明の試み
鮎川幸雄著
●既成の社会科学はなぜ諸学派に分れ、多元的になっているのか？　●社会現象を貫く論理や法則は何か？　●既成の社会学、経済学、政治学などはなぜ当面の問題の解決に無力であるのか？
本書は、社会科学の根底に潜むこのような諸問題に対する懐疑から従来の社会科学方法論に縦横の批判を加え、社会科学が学として確立されるために、普遍性と総合性をもった新しい科学「社会現象学」の創設を提唱する。学習の手引きとしても好個の書。
定価一八〇〇円・送料一四〇円
〒101　東京都千代田区神田神保町1-36（吉野ビル）　電話03（293）9881　振替・東京139319番

お待たせしました〈下巻〉発売です
現代独占資本主義の政治経済学〈下巻〉
A5判上製 四七三頁 二〇〇〇円
ソ連＝世界経済・国際関係研究所編　国際関係研究所訳
戦後の資本主義研究において最も包括的・全面的な内容をもった体系的分析書である本書上・下二巻（約一〇〇〇頁）の翻訳が完結しました。〈下巻〉は、引続き独占資本主義体制下の国家論・国際関係論、および世界革命過程と階級闘争の問題を中心に、論争的な研究課題に取組んでいる。
▼〈全二巻〉書店をとおして至急お求めください。
〈上巻〉増刷出来　A5判五〇七頁・二〇〇〇円
目録呈　協同産業㈱出版部
東京都千代田区九段南3-9-13
電話（261）2985／振替東京39736

USA　留学・研修旅行・通信教育
◆バークレー英語留学（3～6カ月間）
●12週間英語集中講座　¥563,000
●24週間英語集中講座　¥793,000
●国際ビジネスマン養成英語研修講座　¥594,000
●英語教師の為の英語研　講座　¥594,000
出発　昭和48年 9月30日～12月29日
◆ミシガン大学英語留学（4カ月間）
出発　昭和48年 8月30日・12月25日　¥819,000
◆ジョージタウン大学英語留学（4カ月間）
出発　昭和48年 8月30日・12月25日　¥876,000
◆カリフォルニア大学留学（大学・大学院・博士課程）
昭和48年 8月5日～9月27日　¥442,000
◆カリフォルニア州立大学英語研修講座
●英語教諭及び英語教諭候補生の為の英語研修講座
昭和48年 7月22日～9月2日　¥433,000
昭和48年 8月5日～9月2日　¥328,000
◆ハワイ大学英会話セミナー（1カ月間）
出発　昭和48年 7月22日～8月19日　¥198,000
◆バークレー英会話セミナー（1カ月間）
出発　昭和48年 7月29日～8月26日　¥284,000
カリフォルニア大学
通信教育（会員制）
大学課程
アメリカ個人留学
2年制短期大学・4年制大学
大学院・博士課程・職業訓練学校
（株）インターナショナル スチューデント アドバイザーズ オブ ジャパン
〒150　東京都渋谷区神宮前6-19-18　コマツローリエビル　☎03（407）6831（代）
〒530　大阪市北区芝田町45　梅田エステートビル　☎06（373）0412（代）
●詳細案内書200円
●ローン制度有り
（土佐電トラベルサービス代理店）

資本主義社会における「犯罪者」とは何か

＜中＞

「犯罪者」解放センター（神奈川準備会）

監獄内における「受刑者」への労働搾取の実態と、「犯罪者」解放の視野から見た保安処分攻撃について述べられた前回に続いて、今回は、拘禁施設内の「教育」を見て行く。投獄ということは、社会的秩序の侵害行為に対する階級的報復としての〝懲罰〟であると同時に、ブルジョア的な「更正」を強制するものであり、そういう目的をもって、「優良」な労働力商品に再度仕立て上げるものとして獄内での「教育」はあるのだ。そして、そのように「教育」され、釈放された「受刑者」が、「前科者」差別によって低賃金に落し込められていることは言うまでもないであろう。（編集部）

III 教育

「愚民」化教育を許すな

「犯罪白書」に見る獄中「教育」

六十年代における国際競争の激化、並びに経済的矛盾の国内的噴出を、第三次合理化運動によって突破せんとした日本資本主義は、それを支える高度な科学技術労働者の産出と労働力商品の向上を欲求し、それに伴う、教育の徹底的な専門化、コース別化、とりわけ中等教育から高等教育の複雑化、という、いわゆる「複線型教育」の基礎を確実に歩んでいるのである。

初歩においては、学園の民主化とか、封建制、中央集権制の撤廃等を掲げて闘われた学園闘争も、闘いの中で自分にとっての苦痛の根源が何であるのか問い返さざるを得なかった。学園が民主化され、学長の独裁制が崩壊したとしても、しかし、「社会に送り出す任務」を持つ教育は、怖るべき奴隷工場を自然と考える非人間的人格の形成に血道をあげているのであり、産学協同路線に基づく教育そのものこそが粉砕されて行かなければならない。教育の名による競争と分断は、今日、受験生、高校生の自殺の増加、あるいは、いわゆる「不良化」に示される如く、人間的感性の極限的磨滅として進行せしめている。そうであるから、資本主義が人間疎外を生み出すからこそ、政府、支配階級は、その危機感を仕事と家庭とをわりきってとらえることを前提とする個人の生きがい論に解消しようとしている。

一方、教育制度の帝国主義的再編の過程は、在日朝鮮人、部落大衆、沖縄人民、そして貧困家庭の子弟を教育から排除してきた過程でもある。一切の虐げられた人民を選別し、選別して行かんとする今日の教育体系は、諸個人のもつ可能性を「国家」が価値判断し、不良な労働力商品を切り捨てるというものである。「〇歳児教育」もあわせもつ「初等教育の拡充整備」は、一切の可能性を「国家」の下に屈伏せしめるものであり、「授業料値上げ」に見られる「受益者負担の原則＝高福祉、高負担」は、エリート教育の充実と貧困子弟の教育からの排除である。

われわれは、差別選別、能力主義教育を絶対に認めない。なぜなら、他人を差別することによって自己の非人間的感性こそが人間としての尊厳において批判されることをわれわれは知っている。

社会の人が「不良」と言う。受験コースを「正当」に歩まず、自己の可能性を異った場所で見出そうとすれば「落伍者」の格印が押される。しかし、われわれこそが最もよく知っている。「不良」「落伍者」こそ、資本主義的教育の矛盾に全実存を賭して闘い始めていることを。しかし、その闘う方法において、すなわち、個人的反逆とアナーキズム的闘争の限界を鋭く指摘し、矛盾の結果から原因へと攻め登る闘い、個人的反逆にとって替る共同の力による反逆の魅力と階級性を、実践を通して示して行くことが必要である。

次に、拘禁施設の中での教育の問題を、「犯罪者」解放の視点から見てみよう。

昭和四十七年度版「犯罪白書」によると、「教育活動」は「入所時および出所時教育、生活指導、教科教育、篤志面接委員による助言指導、民間の篤志教育家による宗教教誨、体育およびレクリエーションなど」であり、教科教育については「国語、数学等基礎的教科が補習教育として行なわれており、なお職業指導もかねて、珠算、簿記等の指導も行なわれている」とされている。ここではっきりしているのは、「受刑者」への教育は、諸個人の全面的発展のためのものではなく、「職業指導」＝優良な労働力商品作りとして徹底されているのである。

教育を与える時間と余裕があるなら、手に職を付けさせ、宗教で牙を引き抜かんとする政府ー国家権力の意図は、次の事実によって明らかである。

「犯罪白書」は言う。「通信教育は、昭和二十四年以来実施され、学校通信教育と社会通信教育を主として、受刑者に教育の機会を与えている。受講生には、受講料を公費でまかなう公費生と、これを自弁する私費生があるが、四十七年三月までの一年間の受講生は、公費生一、六一六人、私費生三、〇五四人で、受講生の多い講座名は、書道、ペン習字、簿記、自動車、英語、電気、無線、孔版等となっている」。ここで判然とするのは、公費生に対して私費生が三倍弱多くなっていることである。私費で通信教育を受けることのできる「受刑者」が果して何人いるだろうか。一日八時間の労働で、平均三三円四八銭の作業賞与金であり、大半の「受刑者」は通信教育から排除されるのである。公費生になろうと思えば、当然のこととして、労働強化と思想的順応が強制されるのは、資本主義社会の法則であろう。

また、「受刑者」への「愚民化」教育が行なわれていることも見逃してはならない。たとえば、思想的パンフや書物は大半が差し入れ禁止であったり、小六法については許可制で、多くの場合不許可にされているのである。また、学習用品に関しても、極めて限定されており、拘禁施設内の規則に合わなければ不許可とされるのである。

われわれは、当然のこととして学習用品、書物、書証の差し入れ制限を粉砕する。「受刑者」への「愚民化」教育を粉砕する。

「一般」教育施設で学ぶ全ての諸君、労働者諸君、教育を闘う人民のもとに奪取せん。

□差別、選別、能力主義教育粉砕！

□中教審答申粉砕！中教審路線粉砕！

□「受刑者」への「愚民」化教育粉砕――学習用品、書物、書証の差し入れ制限、許可制を即時撤廃せよ！

（つづく）

「犯罪者」解放センター連絡先
横浜市神奈川区六角橋神奈川大学富面寮内

6·10

女性三法案粉砕へ総決起

京都で全関西集会開く

6月10日、午後2時より、京都三条河原において、「優生保護法改悪粉砕全関西決起集会」が全関西の女性解放活動家、労働者、学生、高校生350名を結集して克ち取られた。

まず始めに司会者の方より、政府による優生保護法改悪の攻撃は女性のみならず、「障害者」に対する抑圧、抹殺攻撃としてある事を確認し、女性解放運動と「障害者」解放運動との有機的結合を不断に打ち鍛え、その力を全人民的に推し拡げる中で優生保護法改悪を粉砕していかねばならない、本日の闘いは関西におけるその第一歩であり最後まで闘い抜こうと訴えられ参加団体の発言に移っていった。

K子さんの闘いを支援する会よりは5月5日をもって新たな段階に入ったK子さんの闘いに対する圧倒的支援・連帯を強化する事が訴えられ、西障婦人問題研究会より、女性に対する差別が普遍的に存在している事に対して、その事の解決を地域の女性の現状の調査、交流を通して現実的制約の対象化の中で為さんとしてきた。優生保護法の問題点は①労働力商品の生産と確保のため女性を家庭からたたき出し隷属的労働現場にしばりつける事②羊水チェックなどで「障害者」を抹殺する事に象徴的なように「障害者」差別を法制的に固定化し女性をその尖兵として立てゆく事③中教審答申ー女子教育の差別・選別教育の純化を促し④その事を大和民族の純血性の鼓吹として帝国主義的統合のテコとして利用せんとする事である。優生保護法粉砕ー堕胎罪撤廃の闘いの中でブルジョアジーの意図を粉砕してゆこうとの発言に続き、同志社大学女解研、保育を考える会（岡崎グループ）から闘いの報告と「生む生まぬは女の権利」であるという事に対する批判的提起がなされた。

関西「障害者」解放委員会からは6・3荒木裁判闘争を480名の圧倒的結集で闘い抜いた。本日の闘いに結集された全ての諸君が「障害者」解放の課題を引き受け、労働者階級の課題として波及させていく事を訴える。「障害者」解放闘争の最重要な環はブルジョアとプロレタリアの問題である。田中自民党政府打倒と、プロレタリアートの権力をうみ出す中で「障害者」解放、女性解放の鮮明な姿を確定していこうと発言し、参加者の深い共感と拍手を受けた。続いて発言にたった女性解放活動者会議（プロ統派系）からは生む生まぬは女の権利であると主張する一部の人達は羊水チェックに特徴的な様に国家の生むなという攻撃ー堕胎の強要の最後の判断を女性にゆだねんとしている自由な外観をもった攻撃にどう対決し、突破していくのかと問題提起と、生もうにも生めない現状を踏え、また女性差別による職業病絶滅の闘争を女性解放闘争の課題として渇し切り、その闘いの方向を優生保護法改悪阻止、育児休暇法制定阻止、労基法改悪阻止の女性三法案粉砕の闘いとして、労働者階級、全ての虐げられた人民との共闘した闘いを推進しようと訴えた。

この発言を最後にシュプレヒコール・インター斉唱をもってデモに出発した。

デモは三条河原から円山公園まで終始戦闘的に闘い抜かれたが、とりわけ、四条木屋町付近の森永の総合ショップ前では「障害者」解放委を先頭にこの日の闘いに唯一ヘルメットで参加したプロ統派の女性解放戦線の隊列20名を中心に権力のくり返しの弾圧をはねのけ20数分にも及ぶ森永糾弾、「障害者」解放の座り込みを貫徹し、路上の労働者、学生、市民の圧倒的共感を克ち取った。

荒木裁判闘争勝利へ

関西連帯集会行われる

六月三日、「6・3荒木裁判闘争勝利関西連帯集会」が、6・3集会実行委の主催で、大阪学芸大天王寺分校において、「障害者」を初め、労働者、学生、高校生など約四八〇名を結集して行なわれた。

荒木裁判闘争とは、重度脳性マヒ者である荒木義昭さんが、生きることの正当な主張ー無免許運転を行なったことに対して、裁判所ー国家権力が有罪判決を下したことに現在上告をもって闘っている闘争である。荒木さんは、軽四輪自動車の免許を申請したが、試験所の「障害者」への予断と偏見に満ちた差別指導によって免許を与えられなかった。しかし、荒木さんは、自立して生きるための電機修理販売業を営み続けるためにも、また「障害者」に免許を与えない免許行政への抗議の意志をこめて無免許運転を始めた。三年余りの無免許運転で幾度も不当逮捕され、七度目で不当にも起訴された。第一審は、単に道路交通法第八十八条の問題（運転不適格者として、「ハンドルその他の装置を随意に操作できない」「口がきけない」者をあげている）として片付けて有罪判決を下した。第二審も、荒木さんが無免許運転の正当性を敢然と主張し続けたにもかかわらず有罪判決を下し、現在、荒木さんは最高裁に上告して闘っているのである。

集会では、まず最初に集会実行委より基調提起が行われ、その中では、まず闘争経過が述べられた後、「障害者」が就学猶予・免除という形で教育権が不当に奪われている結果の教育施設である養護学校の「教育」が「障害者」の生活を低賃金に落し込め、その自立を奪い去るものでしかないことが暴露された（荒木さんの日給はなんと七十円だったのである）。そして、大阪市の資料を基に、「障害者」の労働権が不当に奪われていることが明らかにされ、また「障害者」と非「障害者」の連帯のあり方として、「非「障害者」が「障害者」を同化させたり利用したりするものであってはならず、また反対に非「障害者」が自から立場をあいまいにしたまま自己否定的にかかわるものであってもならない」として、さらに、「「障害者」解放はこれまでの価値観の変革なしにはあり得ない」ことを述べて、全ての非「障害者」（労働者）の決起を訴えた。

そして、基調提起の最後に、判決批判も行われ、無罪要求十万人署名運動への結集が呼びかけられた。

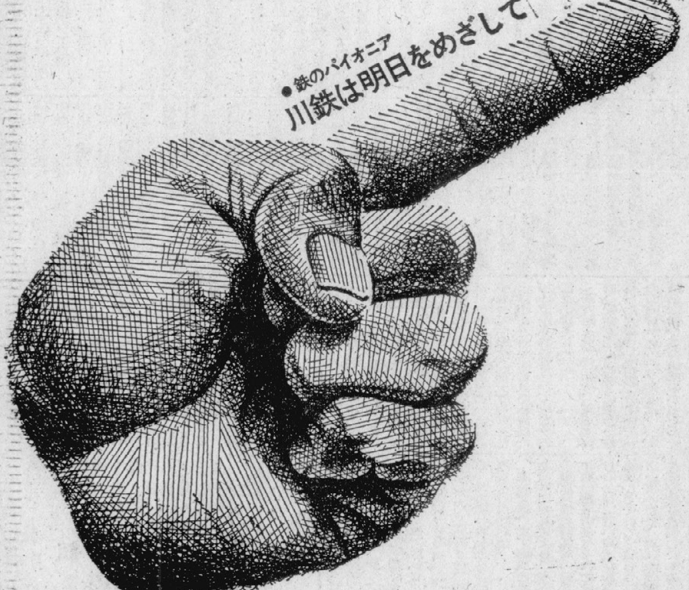
次に、圧倒的な拍手の中で、荒木さんのアピールが行なわれた。荒木さんは「私の基本的人権を剥奪せんとする差別判決は許せない。行動することが「障害者」にとって重要であるにもかかわらず、社会的責任を一切怠って、「障害者」への予断と偏見に基づいて行なわれた一審・二審の差別判決は絶対に承服できないし、裁判闘争という枠の中であるが、「障害者」として最大限の闘いを行なっていきたい」と訴え、全体の熱烈な拍手で確認された。

続いて、質疑応答が行なわれ、まず、堺養護学校非常勤職員の片平敏昭さんから、「障害者」差別による不当解雇と低賃金に対し、大阪府教委との団交を要求して闘っていることが報告された。

また、兵庫県武庫ケ丘学園廃止阻止闘争の報告として、この「精神薄弱児」施設の廃止は、現在の施設を合理化して「重度障害者」を「軽度障害者」と分断してコロニーへ隔離・収容せんとするものであり、また、女性「障害者」への不妊手術が「不幸な子供の生まれない運動」として行われ、「障害児」出産の予想される女性への堕胎手術の推進など、兵庫県の恐るべき「優生保護行政」の実態も暴露された。

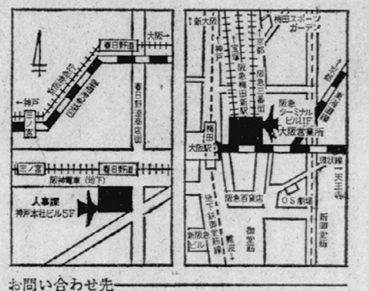
そして、全電通の労働者からは合理化攻撃によって職業病が頻発していることが述べられ、労働者の仕事内容を自らが決定して行くべきことが訴えられた。府中療育センター移転阻止闘争の闘争報告が行われた後、関西「障害者」解放委からは、三療業界（マッサージなど）における闘いが報告され、大阪学大「障害者」解放研の闘争報告をもって、すべての発言を終えた。

シュプレヒコール、インター斉唱の後、近鉄阿倍野橋までのデモンストレーションが座り込み闘争を含んで戦闘的に行なわれた。


●鉄のパイオニア
川鉄は明日をめざして

【明日（あした）といわず】
―いつでも歓迎―

就職。それは自分の一生を左右する問題です。そのために、みなさんはこの問題と真険に取り組んでこられたことでしょう。
5月1日。会社訪問の受付けが始まりました。これまでの考えを行動に移す時が来たのです。あれこれ思いをめぐらす前に、まず、自分の目で実際の姿を見つめてください。
われわれは、いつでもみなさんのご訪問をお待ちしています。



お問い合わせ先

●神戸地区
神戸本社　人事部人事課
神戸市葺合区北本町通1―1
川鉄本社ビル5階 〒651
Tel (078)221―4141

●大阪地区
大阪営業所　総務課
大阪市北区小深町3―1
阪急ターミナルビル 〒530
Tel (06)373―6034～6038

川崎製鉄

TOSHIBA
明日をつくる技術の東芝

夏の男・海の男にクイズで船旅をプレゼント!!

いっしょに遊ぼう、
いっしょに語ろう、多彩な
ゲストと楽しい共同生活…

第2回航海の顔ぶれは、藤島泰輔、はかま満緒、池田敬子、はしだのりひことエンドレス、オフコース、V・S・O・P、ヤング101、永平寺老師、僧侶ほか、ファッションモデル、コンパニオンなど美女大ぜい（順不同）
スケジュールの都合により、多少の変更があるかもしれません。

男を賭けろ、若さを賭けろ
挑戦を待つビッグイベント

★★★★★　ワイルド派に　★★★★★
座禅コンテスト、体力テスト、アドベンチャー講座、航海術あれこれetc.
★★★★★　ジェントル派に　★★★★★
外国の旅AからZまで、東芝ICボストンXやアクタスFUによるオーディオ学入門、オトコの料理教室、やさしい外国語、船上大凧上げ大会（協賛・日本凧の会）etc.
★★★★★　ナウナウ派に　★★★★★
ナウナウ音楽教室、ファッション予報、なんでもティーチイン、ボディペインティング大会、大工仕事とインテリアetc.

クイズを解いて乗りこもう

問1 “静かの海”はどこにある？
㋑北極　㋺月　㋩火星
問2 オナシスの持ち船として有名なのは？
㋑クリスチーナ　㋺マーメイド
㋩メイフラワー
問3 小説“白鯨”の作者は？
㋑ヘミングウェイ
㋺メルビル
㋩スチーヴンスン
問4 東芝オーディオ商品のペットネームをなんでもひとつ。

ハガキを出したら、心は夏

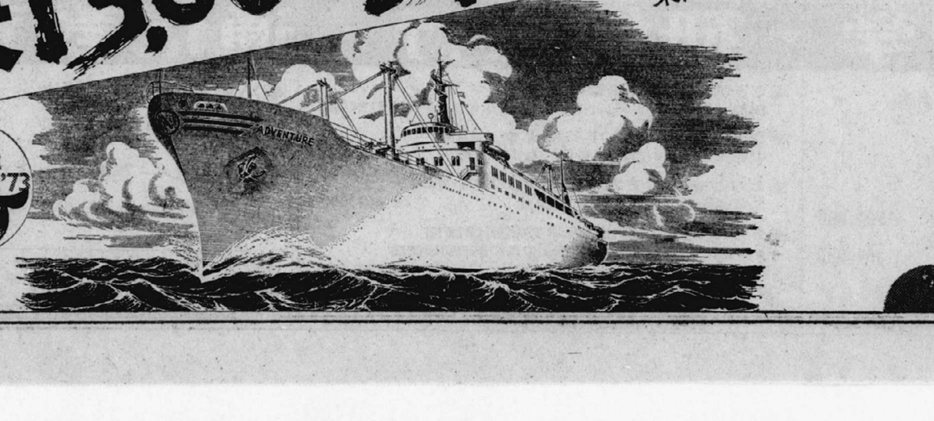
募集締切 6月30日（当日消印有効） 資格 16才から25才までの男子、学業に支障のない方に限ります。 募集人員 1,100名 費用 無料（ただし乗船地までの交通費及び下船以降、帰宅までの費用は各自負担していただきます） 応募方法 官製ハガキで。個人でもグループでも応募できます（グループの場合は代表者を含め4人）。クイズの答、住所、氏名、年令（電話のある方はその番号も）とご希望コースを明記してください。
グループ応募の方は代表者以外の氏名・年令もお忘れなく。（ご希望コースはハガキ1枚につき1コースとします）
当せん者発表 ご本人へ直接ご通知します
あて先 〒100―91東京中央郵便局私書箱1180号　東芝サマースペクタクル'73　係
●ご注意…当せん者の代理参加は認めません。金品との代替もいたしません。ご本人が参加できない場合は失格となります。あらかじめご了承ください。

好きなコースに乗りこもう
きみの好みはどれ

ADVENTURE　日本一周スケジュール

	コース	乗船港――（経由）――下船港	日時	人員
第1回	A	東京――塩釜	7/1～7/2	おかげさまでご好評のうちに募集をしめきらせていただきました
	B	東京――（塩釜）――小樽	7/1～7/4	
	C	塩釜――（小樽）――新潟	7/3～7/6	
	D	小樽――（新潟）――金沢	7/5～7/8	
	E	新潟――（金沢）――博多	7/7～7/10	
	F	金沢――博多	7/8～7/10	
	G	博多――広島	7/11～7/12	
	H	博多――（広島）――坂出	7/11～7/13	
	I	博多――（広島・坂出）――神戸	7/11～7/14	
	J	広島――（坂出）――神戸	7/13～7/14	
	K	坂出――神戸	7/13～7/14	
第2回	L	大阪――名古屋	8/2～8/3	200名
	M	大阪――（名古屋）――清水	8/2～8/4	200名
	N	大阪――（名古屋・清水）――横浜	8/2～8/5	300名
	O	名古屋――（清水）――横浜	8/4～8/5	200名
	P	清水――横浜	8/5	200名

日本一周
豪快13,000人乗っとり作戦
東芝サマースペクタクル'73



TOSHIBA SUMMER SPECTACLE'73

★★新たな反響を呼んで★★
いま、第2回募集中!!
6月30日まで

Toshiba
東芝